

第5章 関連文化財群の概要

1 関連文化財群設定の目的

この章では第4章で概観した文化資源を「備前市の歴史文化を特徴づける文化財の関連性によって生み出される一定のまとまり」、つまり関連文化財群として構成し、新たに設定します。ここでは、関連文化財群として新たに備前市内の文化資源を再構成し、ストーリー性をもったまとまりとしてグループ設定をしますが、そのことによって取り上げられなかった他のものが除外されるようなことがあってはなりません。

関連文化財群の設定を行う際、有形・無形、民俗、記念物、文化的景観など現在の文化財の指定制度を利用する部分もありますが、これだけにとらわれることなく、現在、過去、未来など時間軸の視点、娯楽文化の視点などさまざまな視座から考えていきます。指定を受けた「文化財」という言葉からは、「人々の生活からかけ離れたところで、時間や空間に関係なく単体で存在し、価値のあるもの」という印象でとらえられる場合があります。

しかし、指定の有無にかかわらず、文化資源は人々の生活や時間の流れと不可分の関係で存在し、地域の個性を表象するという特質も含んでいます。地域には長い時間をかけて培われた文化の蓄積があり、そのすべてがかけがえのないものです。

具体的な関連文化財群の設定に関しては、対象となる文化資源に対して様々な判断基準によって価値が区別されます。例えば多い・少ない、大きい・小さい、古い・新しいという数量的な判断基準、指定・未指定、登録・未登録、選択・未選択、決定・未決定、選定・未選定、有形・無形という物として存在する・しないという基準、雅・俗という娯楽性がある・ない、芸術性がある・ないという世間的な価値基準、行政・市民という価値判断をする人々の区分などです。このような様々な見方・考え方・立場はありますが、できうる限りこれらにとらわれることなく、備前市の歴史文化を特徴づけるまとまりを見出すよう努めました。

本計画に至る関連文化財群の設定経緯は次の通りです。備前市において過去の形成された膨大なテキストデータをもとに、「備前市歴史文化基本構想(平成26(2014)年3月策定)」において7つの関連文化財群を抽出しました。7つの関連文化財群の抽出に当たっては、地域の方々と地域を歩いて地域の文化資源を知るワークショップを5回行いました。本計画では、この7つの関連文化財群をもとに、内容の精査をおこないました。作成をすすめる作業の中で、新たに発見されたり、再認識されたりしたものを、備前市の歴史文化の特徴として、関連文化財群を設定しました。

関連文化群の各ストーリーは、地域が成り立ってきた豊かな歴史文化をあらわしています。このストーリーは、観光施策として取り組めるもの、新たな地域産業の契機になるもの、新たな商品開発につながるものなど、多様な可能性を含んでいます。具体的には関連文化財群を実際来訪する人が、その価値や魅力を理解し、発信できる、その良い循環を関係者が実感できるかについて、関連文化財群ごとの情報を集める必要があります。その情報をもとに、観光振興や地域ブランドの創出という視点で調査計画を立案していきます。

このフレームは、実施者である民間企業や団体の参画が必須となるので、備前市里海・里山ブランド推進協議会と連携をとりながら進めていきます。

またこれら関連文化財群のさらなる本質的価値の顕在化を進めるために、備前市の文化資源に関する課題を前提に、構成文化財の適切な維持管理・修理等を行い、あわせてガイダンス施設の整備なども検討します。

【表 5-1】 関連文化財群一覧表

① 学びの原郷閑谷学校と岡山藩主池田家の遺産
旧閑谷学校講堂などの瓦を焼成した「閑谷焼窯跡」、学校経営のための学校田「井田跡」、近代になって存亡の危機にあった学校を維持した人々の関連史跡、閑谷学校の作事をした津田永忠が和意谷に造営した「岡山藩主池田家墓所」・「大多府漁港元禄防波堤」などからなる。
② 備前焼を生み、栄えるまち
中世後半、日本の中でも有数の窯業地であった備前、機能性の高い商品として西日本各地に流通し、織豊期には茶道具として為政者に取り上げられた。近世・近代は低迷するが、金重陶陽によって、現代の美術品となり愛好者も多い。構成資産は中近世の窯跡と現在の窯業地「伊部」の景観からなる。
③ 近代漁業発祥のまちと食文化
日生地区は昭和 30 年代に始まったカキ養殖が、養殖筏と他島美の景観、B 級グルメ「カキオコ」の食文化を生み出した。近世末には、関西や四国まで出漁するサワラ漁の流瀬船の拠点となり、また日生で生まれた「つぼ網漁法」は韓国の近代漁法まで影響を与えた。漁業に関する景観、イベント、海産物など構成資産は幅が広い。

④ 中世山岳仏教の栄華とふるさと村の景観

中世には「西の高野」と呼ばれ真言密教の一大勢力となった地域だが、戦国期には備前・播磨・美作三国の国境に近いという地勢から何度も兵火にあい、荒廃する。近世には、岡山藩の援助もあり復興するが、焼失に遭う。八塔寺の建物、三重塔跡、石小詰の塚など山岳仏教の栄華を彷彿とさせる構成資産からなる。映画のロケ地になることが多い八塔寺付近の自然豊かな農村の風景は、50年ほど前に整備されたもの。

⑤ 耐火煉瓦産業で日本の近代化を支えたまち

近代の日本の製鉄産業を支えた耐火煉瓦で繁栄した地域である。耐火煉瓦の原料であるろう石が産出し、備前焼の焼成技術がありその産業基盤が応用できたことで産地になった。三石地区はJR山陽本線の煉瓦拱渠群、耐火煉瓦工場の煙突、隣接する吉永地区はクレーを乾燥させるための校倉造り風の大型建物が構成資産となっている。

⑥ 映画と文学、「心象風景」の残るふるさと

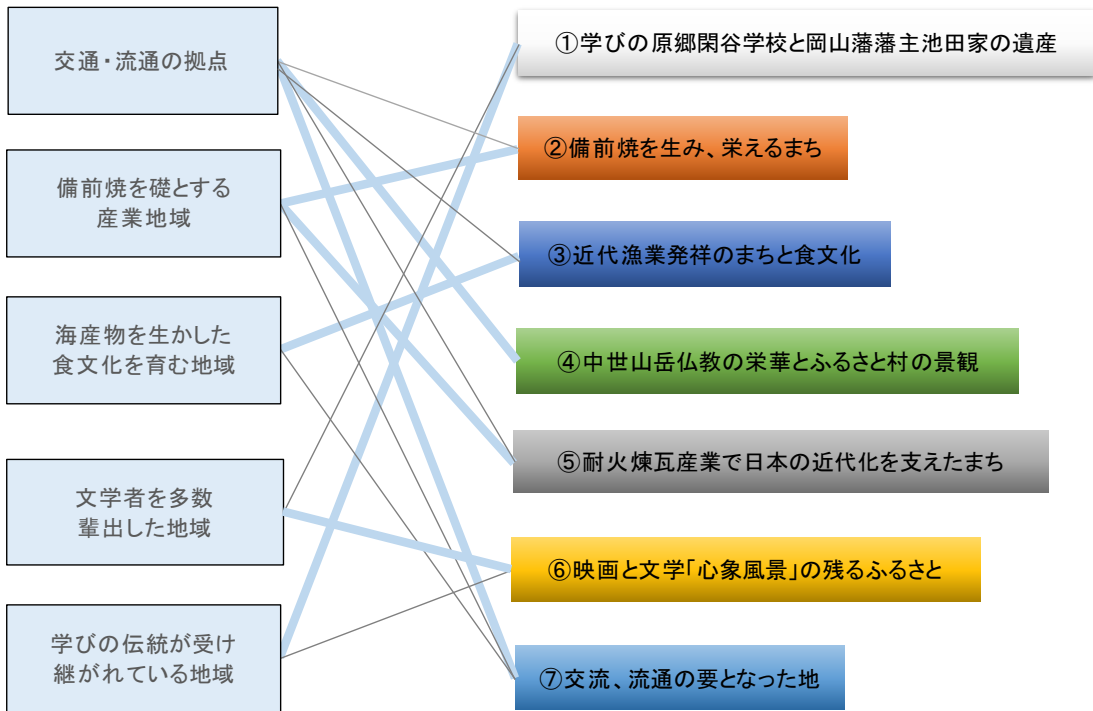
文化勲章を受けた正宗白鳥、弟で稀有な蔵書群を構築した国文学者正宗敦夫、柴田錬三郎・藤原審爾、二人の直木賞作家を備前市は輩出している。近年では、恋愛小説で話題の小手鞠るい、評価が進むプロレタリア文学者里村欣三、昭和50年代の日本のサブカルチャーをけん引した編集者末井昭の出身地、SF作家眉村卓も日生にゆかりがある。映画のロケ地も多く、エンターテインメントのまちとしても注目される。

⑦ 交流、流通の要となった地

縄文時代から現代まで、備前地域では多くの人が行き交い、住み、物をつくり、産業を興し、衰退離散し、その繰り返しで地域が成り立ってきた。備前地域の地勢・地政は、古代以前では海岸部にあっても急峻な熊山山塊があることが遺跡の立地に影響を与え、古代ではその急峻さが密教系寺院にとって拠点を置く好条件となり、中世では山城を築く際有利に働いた。平野部においても、山陽道が中世後半に片上・伊部ルートに変わったことも地域の成り立ちに大きな影響を与えた。そうした営みの中でこの地域の風土が作られ、人々の暮らしの中に息づいている。

備前市の歴史文化の特徴

関連文化財群



【図 5-1】 関連文化財群の設定

① 学びの原郷閑谷学校と岡山藩主池田家の遺産

閑谷学校は備前市の成り立ってきた歴史的な背景を考えると一番に挙げられるものです。寛文10(1670)年、池田光政が木谷村に学校をつくるよう津田永忠に命じたことによつてその歴史が始まります。創建から350有余年、国宝の講堂をはじめ多くの建造物が国指定重要文化財になり、国の特別史跡として適切に保存・活用がされています。楷の木の紅葉・梅や椿など四季折々に変化する自然と講堂の備前焼瓦の美しさに惹かれ、今では年間約十万人が来訪する岡山県内でも有数の観光スポットです。現在では、「旧閑谷学校を世界遺産に登録しよう」という取組みや、「教育のまちびぜん」の象徴や理念としても大きく掲げられています。

また、閑谷学校といえば、学校のある周辺のみを思い浮かべる人が多いですが、成立の過程でできた施設や関わった人々が残したものが備前市内に点在しています。この項目では、「学びの原郷閑谷学校と岡山藩主池田家の遺産」という関連文化財群としてまとめます。

まず、現在の講堂の瓦を焼成するために閑谷学校から南約3km、福神社付近の山裾に貞享3(1686)年、閑谷焼窯が数基築かれました。5万枚もの瓦焼成後は、宝永7(1710)年頃まで、閑谷学校の祭器や細工物など製造する藩の窯業試験場的な場であったといえます。現在は県指定史跡として保護されています。

JR赤穂線伊里駅のホームに降り立つと、東側に向けて広大な水田地帯が広がります。休耕田や点在する住宅はみられますが、規則的な区画が展開します。池田光政が津田永忠に命じて中国周時代の統治機構を具現化するために広大な土地を開発して上井田、下井田などを作りました。実際の完成は、光政没後の綱政の時代になります。また閑谷学校周辺には、光政の理想の具現化を試みた井田とは別に、閑谷学校の経営基盤を支える「約280石の学田」、「70町余の学林」があります。

次に閑谷学校を作り上げた津田永忠が関わった文化資源をみていきます。

元禄11(1698)年、「大多府に港を整備せよ」との藩命により津田永忠は延長約130m、幅6m、高さ5mの石積みの防波堤を大多府島に作りました。その形は、閑谷学校の石塀と見紛うばかりで、わが国で現存する数少ない明治以前の防波堤の中で最も優れた構造物のひとつであるという評価がされています。現在では、大多府島の玄関口に国指定登録文化財「大多府漁港元禄防波堤」として、他にはない優れた景観を作り出しています。島には合わせて航行の安全を図るため、灯籠堂や船舶の飲料水確保のため大井戸も整備され、現在では市指定史跡として保存が図られています。

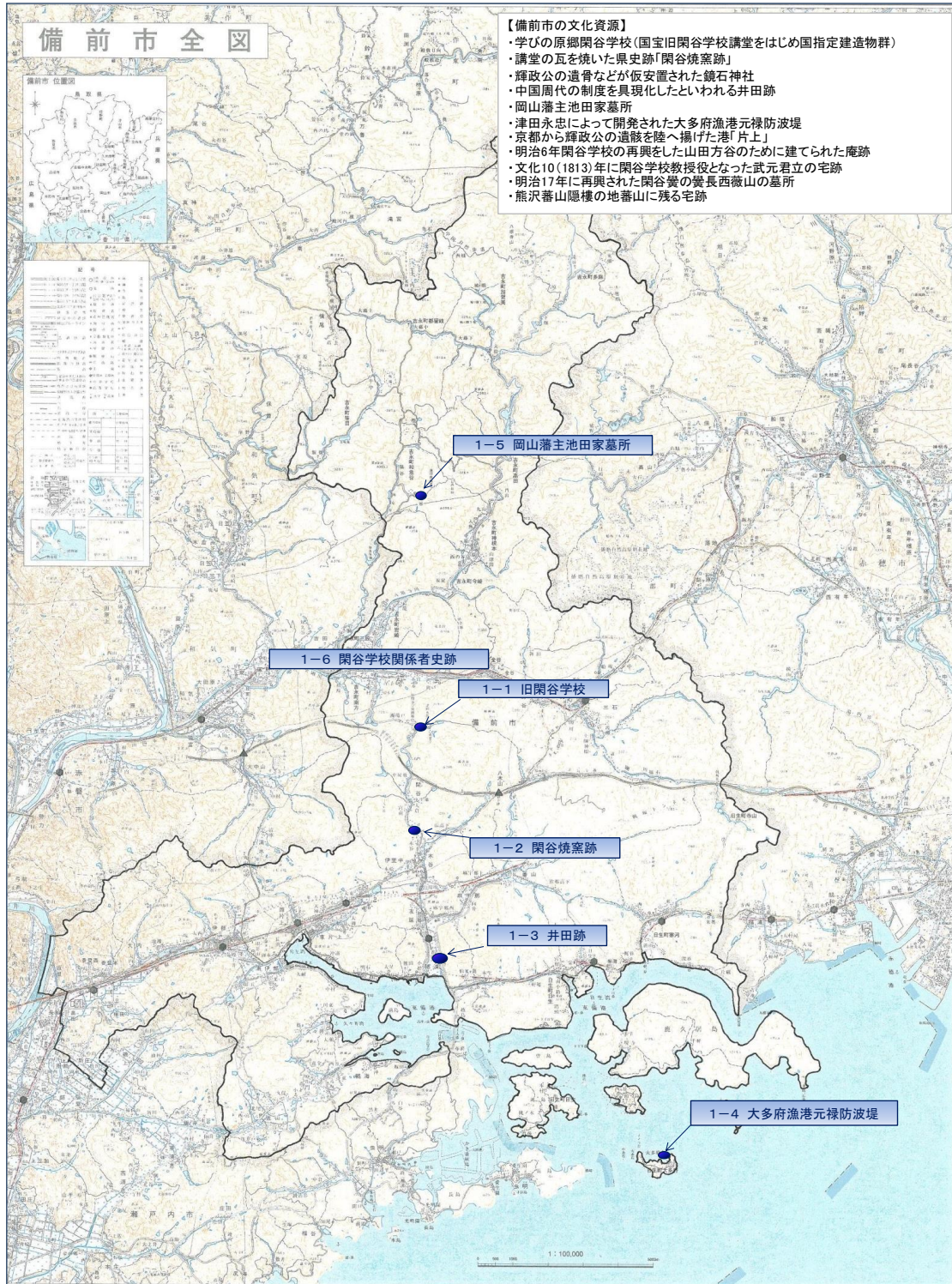
寛文4(1664)年、池田家の菩提寺、京都花園妙心寺護国院の炎上をきっかけとして光政

が津田永忠に命じて作ったのが和意谷の池田家墓所です。京都から海路運ばれた池田輝政と利隆の遺骸は片上の津から鏡石神社に運ばれ仮安置されたと伝わります。鏡石神社のご神体はろう石でできた八木浄慶作「池田輝政」の像で、本殿は三間社流造で、平唐門が付属します。墓所は、標高 390m、和意谷敦土山山上に光政の祖父輝政(姫路城城主)、父利隆、光政を儒式で埋葬しています。明治年間に慶政、茂政の「お山」ができ、合計 7 つのお山で構成されています。

【表 5-2】「①学びの原郷閑谷学校と岡山藩主池田家の遺産」構成文化資源一覧

番号	文化資源の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地	
1-1	旧閑谷学校	国重文	岡山藩主池田光政によって創建された、現存する世界最古の庶民のための公立学校といわれている、国宝の講堂をはじめ多くの建造物が国指定重要文化財になり国の特別史跡となっている。	伊里	<p>1-1 旧閑谷学校</p> 
1-2	閑谷焼窯跡	県史跡	講堂の瓦焼成のために築かれた窯。閑谷学校の祭器や細工物など製造する藩の窯業試験場的な場であった。	伊里	<p>1-2 閑谷焼窯跡</p> 
1-3	井田	市史跡	池田光政が津田永忠に命じて中国周時代の統治機構を具体化するために開発した水田で、上井田、下井田などを作った。	伊里	
1-4	大多府漁港元禄防波堤	登録有形	津田永忠によって作られた石積みの防波堤。国内で現存する数少ない明治以前の防波堤の中で最も優れた建造物のひとつである。	日生	<p>1-4 大多府漁港元禄防波堤</p> 
1-5	岡山藩主池田家墓所	国指定	池田家の菩提寺、池田光政が津田永忠に命じて作った。岡山藩主池田宗家一族の墓所で合計7つのお山で構成されている。	吉永	
1-6	閑谷学校関係者史跡	市史跡	閑谷学校の再興をした山田方谷のために建てられた庵跡、岡山藩の藩政確立に取り組んだ熊沢蕃山の隠棲地や居宅跡、閑谷学校教授役となった武元君立の宅跡、閑谷巒の覺長西薇山の墓所をはじめ、江戸時代からの閑谷学校関係者が葬られた墓所が残る。	吉永・伊里	

① 学びの原郷関谷学校と岡山藩主池田家の遺産



【図5-2】

② 備前焼を生み、栄えるまち

平安時代の末、西の山窯跡や大ヶ池南窯跡など伊部の山麓で生産が開始された備前焼は、鎌倉時代中ごろになると山の中腹に立地することが多くなり、南北朝期にはさらに高度をあげ、標高 400mを超えるような熊山山塊に位置するものもあります。熊山山頂には熊山遺跡を代表とする石積み遺構が点在し、奈良時代には靈山寺という山上寺院が建立されました。南北朝末ないしは室町時代はじめ頃、ふたたび窯は山麓に築かれるようになります。規模も山崎古窯跡の幅 2.5m、推定全長 20m、不老山東口窯跡の幅 3.4m、推定全長 40mにも巨大化し、量産化を指向します。その後 16 世紀後半のある段階で、山麓に点在していた大窯は北大窯、西大窯、南大窯へ集約されることとなります。

律令制下の旧備前市域は、当初邑久郡香登郷、方上郷などに属していたようで、その後天平神護 2(766)年、藤野郡(のちの和気郡)に編入されています。現在の旧備前市域は『倭名類聚抄』では和気郡坂長郷、香止郷ですが、記載のない「方上郷」は「延喜式」では美作の港「片上津」となっています。「香止郷」は伊部を含む香登の平野部だったと想定されますが、白河天皇の勅旨田となり、その後堀河天皇の時代(白河院の院政期)に荘園として成立します。その後、香登荘は鳥羽院、八条院に伝えられますが、母の美福門院藤原得子の菩提を弔うために高野山菩提心院に領家職が寄進されます。こうして香登荘は八条院を本家とし、菩提心院を領家とすることになります。

菩提心院は、高野山内で金剛峰寺方と対立していた大伝法院方の末寺に属します。その紛争の結果、正応元(1288)年大伝法院は、和歌山県那賀郡根来町へ移ります。この地にある根来寺はその大伝法院を前身とする真義真言宗の総本山ですが、その坊院跡から埋甕遺構として大量の備前焼の大甕が出土したことが知られます。その数は根来寺全山で、1,500 個以上といわれ、その多くが 16 世紀後半に属するものです。用途は甕倉で油を蓄える容器としての使用が推定されています。その量的なものを香登荘と大伝法院との関係に見る向きもありますが、香登荘は南北朝の動乱によって領有は仁和寺に帰し、最終的に室町幕府領として伝領されていたと考えられています。したがって大量出土の理由を別に考える必要があります。

室町時代、備前の地は赤松氏、山名氏、浦上氏など勢力がめまぐるしく入れ替わりますが、最終的に宇喜多氏が覇権を握ります。そのころ活躍した豪商で来住法悦という人物は、片上湾の最奥部浦伊部に居住し、瀬戸内海の交易で何万石もの富を築いたといえます。交友関係も日禰をはじめとする日蓮宗本山関係者、保津川を開削したことで知られる京都の大商人角倉了以との結びつきがあります。天正 18(1590)年には、岡山城築城の銀を調達し

た功績により、岡山城下に一町を賜り、屋敷を構えるなど宇喜多氏とも非常に強く結びついていた。

浦伊部の地は伊部南大窯跡からわずか1.5km 東にあたり、備前焼を海上ルートで積み出す際、要地となったところで、根来寺での大量の備前焼大甕出土の背景には豪商来住法悦を要とした海上交易ルートのかかわりが深いと考えられます。平成12(2000)年の調査で確認され天正期の窯と推定されている東3号窯跡はまさに根来寺に大甕を大量に提供した窯のひとつと考えられています。

文献資料・考古資料に、香登がやきものの産地として登場することもあります。和歌山県西牟婁郡白浜町長壽寺境内から出土した大甕は「備前國住人 香登御庄□ 二 曆應五年□ あつらう也」の銘文があります。暦応5(1342)年の年号は、知見のある年銘資料としては最古のものです。

応安4(1371)年、九州探題へ下向する途中の今川了俊(貞世)は、「さて、かゞつ(香登)といふさとは、家ごとに玉だれのこがめといふ物を作ところなりけり(中略)其日はふく岡につきぬ・・・」という記述を『道ゆきふり』という紀行文の中に残しています。

その福岡については、正安元(1299)年円伊を主宰とする工房で制作された『一遍聖絵』の福岡の市の場面に、布や魚鳥など商いの商品とともに簡単な掘建て小屋の下に備前焼が転がっている様が描かれています。一遍がこの地を布教に訪れたのは、弘安元(1278)年頃だったといわれています。

このほか「香登荘」と直接の関係ではありませんが、『兵庫北関入船納帳』に文安2(1445)年に備前焼の壺や甕が1200個余り兵庫港(現神戸港)に運ばれた記載があります。

このように過去の備前焼は機能性の高い商品として西日本を中心に流通し、織豊期、その味わいから為政者に茶道具として取上げられました。近世以降は他の窯業地で生産された施釉陶や磁器に商品として市場をうばわれ衰退の道をたどりますが、昭和に現れた備前焼中興の祖と呼ばれる金重陶陽によって、美術品としてその市場価値を見出して、今日にいたります。最盛期には窯元・備前焼作家は400人を超えたといえます。

【表 5-3】「②備前焼を生み、栄えるまち」構成文化資源一覧

番号	文化資源の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
2-1	備前焼の窯跡群	国史跡 市建造物	平安時代の末、西の山窯跡や大ヶ池南窯跡など伊部の山麓で生産が開始された備前焼は、鎌倉時代中ごろになると山の中腹の立地が増加し、16世紀後半のある段階で山麓に点在していた大窯は北大窯、西大窯、南大窯へ集約された。国指定史跡の備前陶器窯跡をはじめ、市指定史跡の備前熊山古窯跡群、下山龍王山古窯跡群、市指定建造物の天保窯がある。	伊部
2-2	医王山・不老山・榎原山	未指定	これらの山には各時代の備前焼を生産した窯跡が点在している。	伊部
2-3	伊部の町並み	未指定	近世の山陽道の面影を残す伊部の東西通りと点在する備前焼を使った塀や土留めがある。窯元、作家が軒を連ね、登窯の煙突が独特の景観をみせる。	伊部
2-4	耐火煉瓦 工業の近代遺産群	未指定	明治時代に産業として土管製造の工場が立ち並んだ。	伊部
2-5	天津神社・長法寺	市工芸品	陶工に関わりのある宗教施設に、陶祖を祀る忌部神社がある。宮山からの眺望や備前焼の屋根瓦、参道などがある天津神社や、備前焼作家の檀家が多い長法寺等がある。	伊部
2-6	浦伊部	未指定	備前焼の積出拠点とされる浦伊部来住家などがある。	伊部

2-1 備前焼窯跡



2-2 不老山と山陽新幹線



2-3 伊部の町並み



② 備前焼を生み、栄えるまち



【図5-3】

③ 近代漁業発祥のまちと食文化

日生地区では「R」のつく月にはカキが食べられるシーズンだといえます。フランス語で9月から4月を表記すると必ず「R」が入ることからのようです。このカキ、今ではご当地グルメカキオコ(カキ入りお好み焼き)として全国的に知られ、全国から観光客が押し寄せるほど盛況になっています。このブームは、20年ほど前に「日生カキお好み焼き研究会」という団体が、地元で食されていたカキオコを見直そうと広報をはじめたことが端緒となっています。日生で採れる新鮮で肉厚なカキを千切りキャベツと生地を合わせて鉄板で焼くためカキの独特の風味を失わない所が魅力です。そのため新鮮なカキが市場に出回る10月下旬から3月頃までの季節限定メニューになっています。

ルーツははっきりしないのですが、昭和36(1961)年にカキ養殖がはじまったことがきっかけになっているようです。現在ではカキの生産は広島県、宮城県に続き全国第3位で、日生は県内でも有数の産地です。カキ養殖は、ホタテ貝の殻の真ん中に穴を開け、針金を通したものをロープにつけて筏につるす垂下式で、1本のロープにつき約30枚、筏1基につき800本ほど吊り下げています。カキ養殖がはじまった当初は湾内に約20基余り筏がありましたが、現在は約300基前後の筏があり、片上湾から日生諸島にかけてカキ筏が浮かぶ風景は、瀬戸内海らしさを醸し出しています。

全国でもカキ養殖の有数の産地となった日生地区ですが、江戸時代の終わりごろにはサワラ漁の流瀬船が300隻、阿波、讃岐、播磨まで出漁し、大坂魚市場では「魚島のサワラ」として高値で取引されました。また日生の漁民が150年前に生み出した「つぼ網漁法」が日本や韓国の近代漁法に影響を及ぼしたこともその歴史のひとつです。つぼ網漁法は魚がものにぶつくと曲がる習性を利用したもので、チヌ、カレイ、メバル、車エビ、イカ類を対象としています。10m×100mの範囲で竹竿を海中にさし、それに網を袋状にかけ、道網と呼ばれる誘導部分から魚を網の中に導くシンプルで合理的な漁法として知られます。進取の気性に満ちていた日生の漁民は、明治20(1887)年以降の韓国、フィリピン、シンガポールなど海外へも進出し、その漁法が伝播したともいわれています。鱈は春を告げる魚のとおり、この時期に瀬戸内海沿岸の各地で食されます。

日生漁港の五味の市に隣接して、江戸時代の建物を移築改修した加子浦歴史文化館があります。建物内には漁具や回船などの資料が多数展示してあり、このような日生地区のルーツを学習する絶好のポイントとなっています。

五味の市では、朝早く水揚げされた魚が漁師のおかみさんによって威勢良く売られています。関西方面からのお客さんが多いようです。さまざまな魚、競り出せない魚を扱うこ

とが市の名前の由来らしいですが、以前は現在地より北 700m にあり、平成になって岡山県によって埋立て整備された「東備港日生地区」に移転しました。

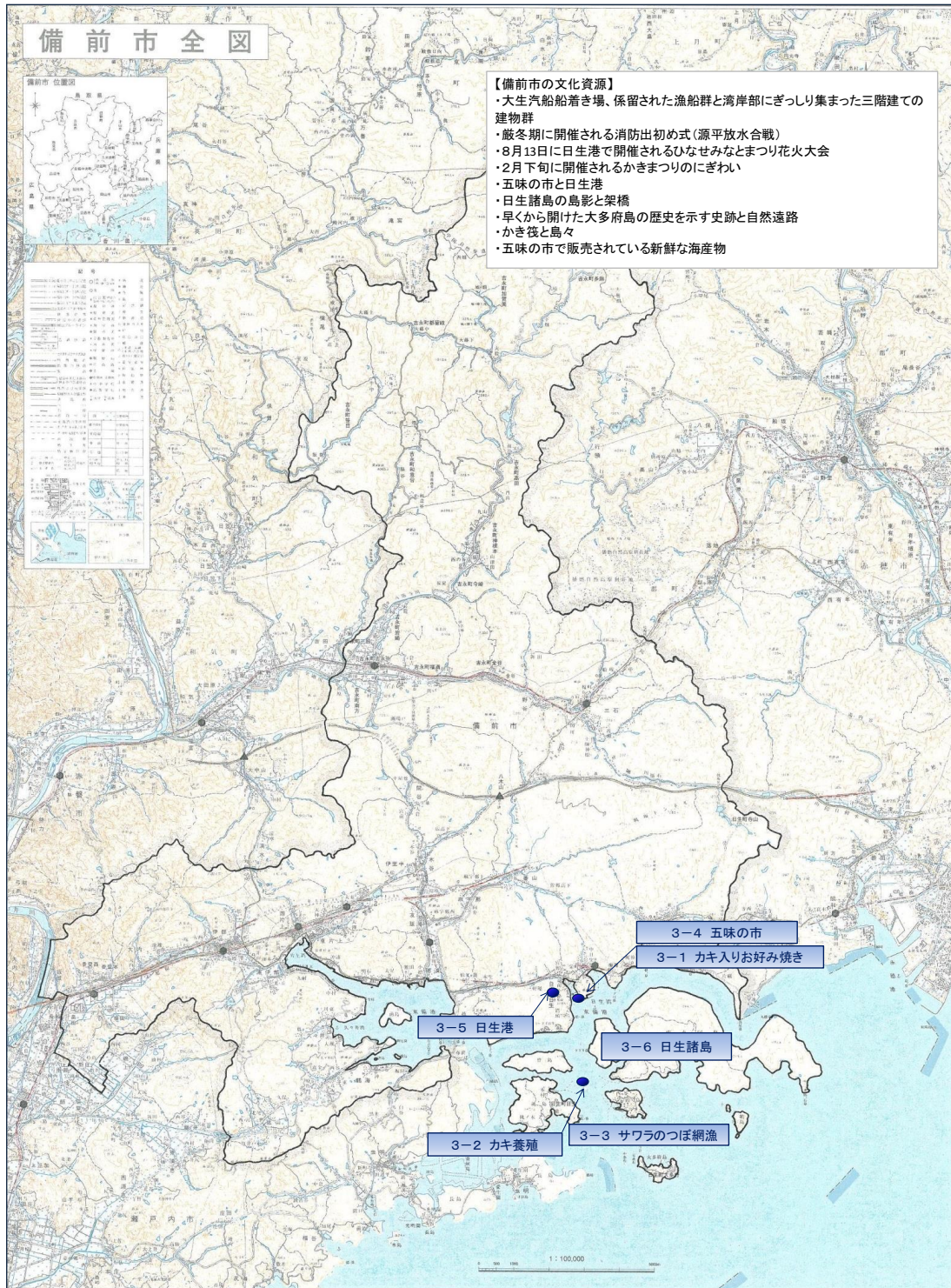
日生港の最深部にあたるこの付近は三階建ての建物が港に隣接し、店先では焼き穴子など海産物が販売されています。日生諸島への定期便が発着する船着き場、係留された漁船群、高良八幡の社叢と楯越山、高層マンションなどが、港湾の中に競うような独特の対比で特徴的な景観を成しています。

船着き場から大生汽船の定期便で沖合に出ると、向かって左側に「うちわだの瀬戸」に備前⇄日生大橋がかかる鹿久居島が見えます。14 ある日生諸島最大の島で 10.17 km²の広さがあり、頭島大橋からペンションや民宿が多い頭島へとつながります。さらに左手前方沖合には、キリシタン巡礼の地として知られる鶴島、潮待ちの場所として古くから栄えた大多府島の島影が望めます。右側は「うずあいの瀬戸」を挟んで曾島、点在する別荘の白い建物と島影が印象的な鴻島があります。港に戻り日生地区の住宅地に入り込むと鮮魚店や小売店、カキオコの店や水餃子の有名店が住宅に隣接し、さらに歩みを進めると、江戸時代中期に活躍した廻船業者田淵屋甚九郎の碑がある西念寺や、獅子舞が市指定無形民俗文化財になっている春日神社があります。

【表 5-4】「③近代漁業発祥のまちと食文化」構成文化資源一覧

番号	文化資源 の名称	指定等 の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財 の 所在地	
3-1	カキ入り お好み焼 き	未指定	日生で採れる新鮮で肉厚なカキを千切りキャベツと生地を合わせて鉄板で焼くためカキの独特の風味を失わない所が魅力。全国から観光客が押し寄せるほど盛況である。	日生	<p>3-2 カキ養殖</p>  <p>3-3 つぼ網漁法</p>  <p>3-4 五味の市</p> 
3-2	カキ養殖	未指定	カキの生産は広島県、宮城県に続き全国第3位で、日生は県内でも有数の産地。現在では約300基前後の筏があり、片上湾から日生諸島にかけてカキ筏が浮かぶ風景は、瀬戸内海らしさを醸し出している。	日生	
3-3	サワラの つぼ網漁 法	未指定	江戸時代の終わりごろ日生ではサワラ漁が盛んだった。日生の漁民が150年前に生み出したつぼ網漁法は、魚がものにぶつかると曲がる習性を利用したものである。	日生	
3-4	五味の市	未指定	朝早く水揚げされた魚が漁師のおかみさんによって売られている。	日生	
3-5	日生港	市指定	日生諸島への定期便が発着する船着き場、係留された漁船群、高良八幡の社叢と楯越山、高層マンションなどが、港湾の中に競うような独特の対比で特徴的な景観を成している。	日生	
3-6	日生諸島	未指定	14の島から構成され、瀬戸内海国立公園の一部。	日生	

③ 近代漁業発祥のまちと食文化



【図5-4】

④ 中世山岳仏教の栄華とふるさと村の景観

八塔寺ふるさと村の中心地部に立つと、まさにそこはスローライフの世界です。普段間断なく音にさらされている現代人にとって、農村風景を背景に蝉の声、たまに走る車のエンジン音など、一つ一つの音がクリアに聞こえます。いわば、音に隙間がある静けさが町の喧騒と離れた独特の空間です。

このふるさと村の景観ができたのは、昭和 49(1974)年です。国による面的な保存整備事業が行われていない時期に岡山県によって独自に進められた保存・整備事業で、津山市の大高下、鏡野町の越畑とともに、ふるさと村整備の端緒となりました。現在では、のどかな農村風景が広がる地域ですが、その名前が示す通り、八塔寺としての積み重ねがあります。

八塔寺は、神亀 5(728)年聖武天皇の勅願によって弓削の道鏡が創建したと伝わっています。中世には、高野聖の分流「八塔寺聖」の力でできた真言密教として勢力があり、「西の高野山」とも呼ばれ、一時は「八院六十四坊七十二ヶ寺」あったといわれています。この行者関連の史跡に市指定史跡の石小(子)詰の塚があります。

乾元元(1302)年、歴応元(1338)年、八塔寺は備前播磨美作の国境に位置するという地形的な要因から再三の兵火に遭い焼失しています。その後永正 14(1517)年、三石城主浦上村宗と置塩城主赤松義村の戦いとなった八塔寺合戦で全山が焼失しました。しかし高頭寺の山門は唯一焼失しなかったと伝わります。



この高頭寺ですが、その寺号は江戸時代初めごろにさかのぼります。元和元(1615)年、八塔寺は常照院(愛染院)、宝寿院(真言院)、明王院の三院になります。常照院に天台宗の僧が入り、八塔寺の寺号を使用、天台宗への改宗を行います。宝寿院と明王院は真言宗のまま高頭寺(山号恵日山)と改め、現在に至ります。

池田忠雄による八塔寺再興がなされたのは寛永 3(1626)年ですが、その後も宝永 3(1706)年、池田綱政により三重塔などが整備されました。しかし、寛政 2(1790)年、またも焼失にあい、その後再建されて現在に至ります。

景観という視点では、中世にはかなりの規模を有する宗教的な拠点であり、その名残は八塔寺周辺にうかがうことができます。しかし現代の景観の主をなすのは「ふるさと村整備」事業によるもので、「黒い雨」をはじめ映画のロケ地として取り上げられています。

またモリアオガエルやヒメボタルなどが生息する周辺の豊かな自然環境も景観の特徴として忘れることができません。

【表 5-5】「④中世山岳仏教の栄華とふるさと村の景観」構成文化資源一覧

番号	文化資源の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地	
4-1	八塔寺ふるさと村	未指定	国による面的な保存整備事業が行われていない時期に岡山県によって独自に進められた保存・整備事業で、ふるさと村整備の端緒となった。典型的な農家のつくりをもつ国際交流ヴィラがあり、民俗資料館などの建物群と田のおりなす空間が広がる。	吉永	<p>4-1 八塔寺ふるさと村</p> 
4-2	八塔寺周辺	市指定	山岳仏教の栄華を偲ばせる市指定石造美術の石小（子）詰の塚や、かなりの規模を有する宗教的な拠点であった八塔寺などに中世の名残をうかがうことができる。	吉永	<p>4-3 八塔寺ふるさと村周辺の自然</p> 
4-3	八塔寺ふるさと村周辺の自然	市天然記念物	市指定天然記念物のヒメボタル、コウヤミズキ自生地、モリアオガエルなど自然豊かな環境である。	吉永	

④ 中世山岳仏教の栄華とふるさと村の景観



【図5-5】

⑤ 耐火煉瓦産業で日本の近代化を支えたまち

明治 34(1901)年に官営の八幡製鉄所が粗鋼の生産を開始したことにより、鉄鉱石を溶かす本格的な製鉄業が発展していきました。そのような中で、溶鉱炉の内壁に使用する耐火煉瓦の需要が増加したこと、備前焼の焼成技術がありその産業基盤が応用できたこと、大平鉱山のろう石開発が行われていたことなどから、加藤忍九郎の三石耐火煉瓦株式会社が発展し、三石地区に耐火レンガ工場が集中することとなります。

また兵庫県境の三石地区を通る JR 山陽本線には、四連の三石金剛川拱渠、小屋谷川拱渠をはじめ計 10 基もの煉瓦拱渠群(アーチ橋)が連続している区間があります。明治 9(1876)年に造られた京都府の七反田拱渠の六連に次いで径数が多くなっています。また岡山県近代化遺産総合調査報告では、野道拱渠はポータルに焼過煉瓦を用いた模様(ポリクロミー)が美しいだけでなく、堅積された自立したアーチ(ヴォールト)に明確な縞模様が入るといふ珍しいデザインであること、小屋谷川拱渠は内部に勾配があり、途中で何段にも高さを変えている点が珍しいとの指摘があります。

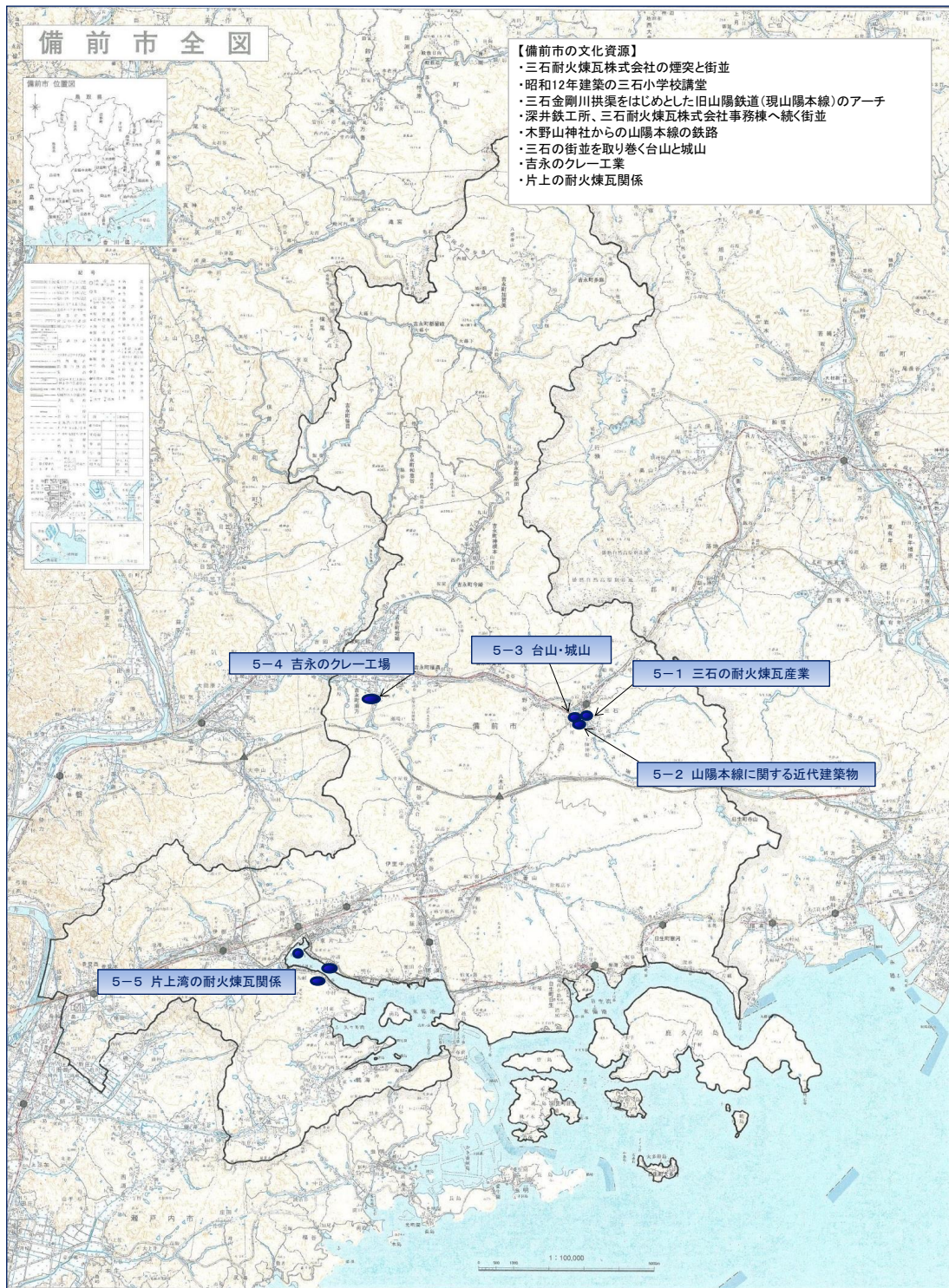
JR の煉瓦拱渠群(アーチ橋)以外にも、三石地区には M プロジェクトの象徴的存在となっている昭和 12(1937)年に完成した三石小学校講堂、入り口に独特のアーチを持つ木造三階建ての深井鉄工所、三石耐火煉瓦株式会社の煙突など、耐火煉瓦産業で日本の近代化を支えたまち、三石を特徴づけています。

吉永地区南部には工場に隣接して、校倉造り風の大型の建物をみることがあります。風を中にいれ、製品であるクレーを乾燥させるための施設です。その工場のひとつ山陽クレー工業株式会社のホームページによると「クレーは元来粘土、または白土と訳されるが、日本では主としてろう石を微粉末にしたものをさす。ゴム業界ではクレーのことをカタルポといい、薬品業界ではカオリン、製紙業界では白土と呼び、業界によって異なる。タルクは中国から原石を輸入し粉碎精錬した鉱物の粉末で、用途は製紙の填料、農薬のキャリアー、塗料接着剤、ゴム、樹脂、紡績、医薬等幅広い分野にわたって利用されています。商品本来の機能を十分に発揮させるために潤滑油的役割をもつ原料」(一部改変)との説明があります。このクレー、戦後の復興期には全国の 9 割を占める主要な産業のひとつであり、現在でも製品を乾燥させる施設は独特の景観をつくりだしています。

【表 5-6】「⑤耐火煉瓦産業で日本の近代化を支えたまち」構成文化資源一覧

番号	文化資源の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地	
5-1	三石の耐火煉瓦産業	未指定	耐火煉瓦の需要の増加や、備前焼の窯の技術を持つ地域が近くにあったこと、太平鉱山のろう石開発が行われていたことなどから、加藤忍九郎の三石耐火煉瓦株式会社が発展し、三石地区に耐火煉瓦工場が集中し発展した。	三石	<p>5-1 耐火煉瓦産業の街並み</p> 
5-2	山陽本線に関する近代建築物	未指定	三石地区を通る JR 山陽本線には、四連の三石金剛川拱渠、小屋谷川拱渠をはじめ計 10 基もの煉瓦拱渠群（アーチ橋）が連続している区間が現存している。	三石	<p>5-3 台山</p> 
5-3	台山・城山	未指定	三石地区は、国内屈指のろう石の産地である台山や、城山には中世の山城である三石城に囲まれている。	三石	<p>5-6 片上湾の耐火煉瓦関係</p> 
5-4	旧三石尋常小学校 旧講堂等の近代建築	未指定	三石地区には耐火煉瓦産業が発展していた当時の建築物が点在し、三石の町並みを特徴づけている。	三石	
5-5	吉永のクレー工業	未指定	クレーとは、ろう石を微粉末にしたもので、戦後の復興期には全国の 9 割を占める主要な産業のひとつであった。製品を乾燥させる施設は独特の景観をつくりだしている。	吉永	
5-6	片上湾の耐火煉瓦関係	未指定	片上湾沿いを中心に耐火煉瓦等の工場が並んでいる。	片上	

⑤ 耐火煉瓦産業で日本の近代化を支えたまち



【図5-6】

⑥ 映画と文学、「心象風景」の残るふるさと

6 番目に設定した関連文化財群は、文化財のフレームからではなく、備前市で映画・テレビドラマのロケ地となった場所、備前市出身またはゆかりのある文学者とその作品に登場する舞台という大きく二つの視点から構成してみました。



まず映画・テレビドラマのロケ地となった場所ですが、昭和 31(1956)年公開の原節子主演、小津安二郎監督の「早春」を嚆矢に平成 21(2009)年公開の広末涼子、中谷美紀主演の映画「ゼロの焦点」まで 10 例を数えます。岡山県内では倉敷市の美観地区、岡山市の西大寺地区、高梁市の中心部の街並みなどがロケ地としてよく知られていますが、備前市内でも比較的ロケが多く行われています。市内地区別では三石地区と八塔寺ふるさと村の 2 か所が多くなっています。これは三石地区や八塔寺ふるさと村がひとつの関連文化財群として構成できるほど特徴的な景観をもつところに起因すると思われます。

次に備前市出身またはゆかりのある文学者を取り上げてみました。明治末から昭和初期に活躍した穂浪出身の正宗白鳥、「眠狂四郎」シリーズで知られる鶴海出身の直木賞作家柴田錬三郎、純文学からハードボイルド、恋愛小説まで幅広い執筆で「小説の名人」とも称された片上出身の直木賞作家藤原審爾、プロレタリア文学者として再評価が進む日生寒河出身の里村欣三、「エンキョリレンアイ」などの恋愛小説が話題を呼ぶ伊部出身の小手鞠るい、昭和 50 年代の日本のサブカルチャーをけん引した編集者で吉永出身の末井昭があげられます。出身者ではないものの、会社員として日生に在住していた眉村卓は SF 作家で、平成 21(2009)年、病気で亡くなった妻に日々ショートショート作品を捧げた実話をもとにした「僕と妻の 1778 の物語」が竹内結子、草薨剛主演で映画化されています。

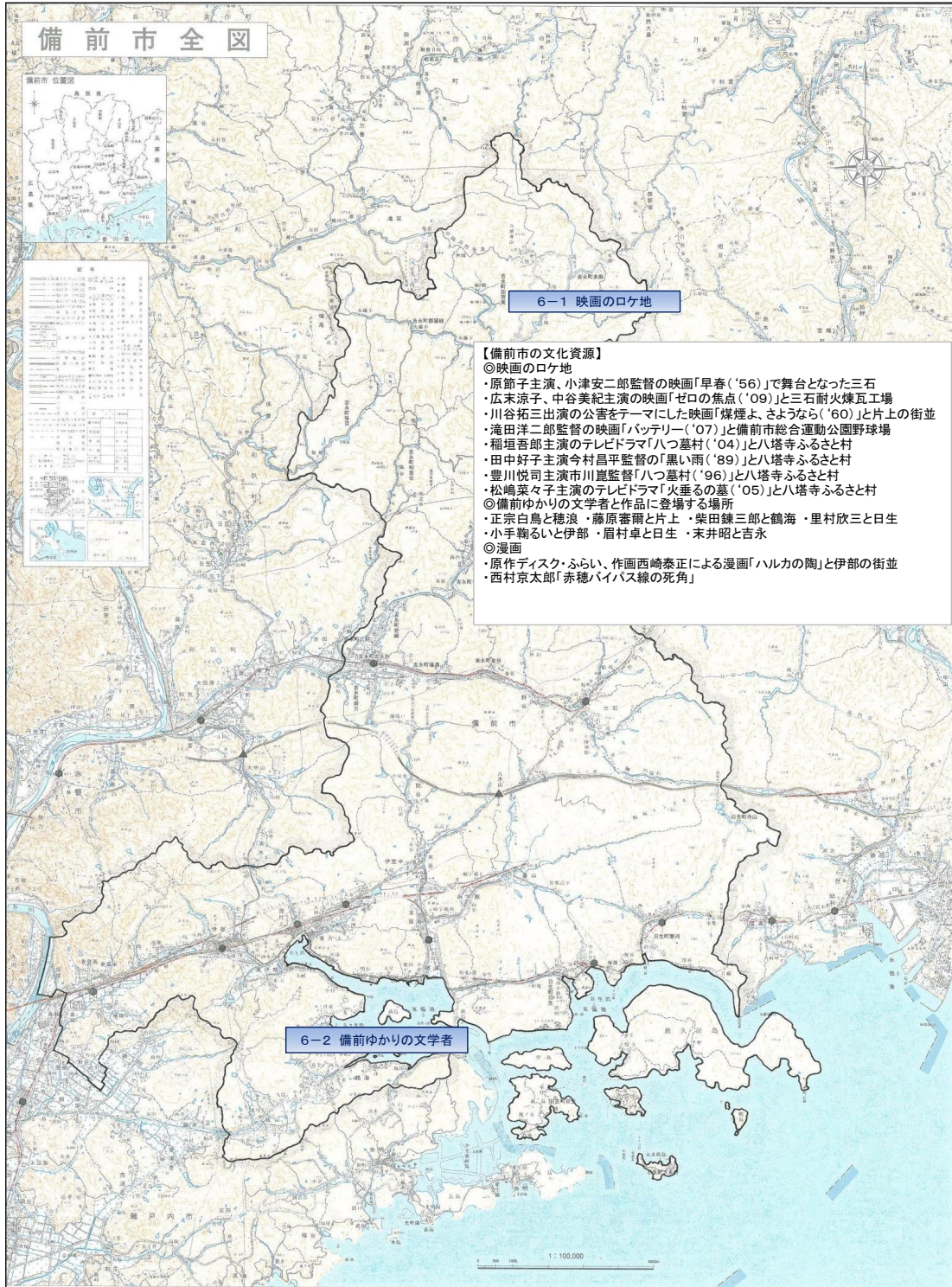
漫画では、原作ディスク・ふらい、作画西崎泰正による「ハルカの陶」が平成 23(2011)年に話題となりました。その後映画化もされています。原画作者は岡山市出身ですが、備前焼に魅せられ窯元で修行するハルカを伊部の町並みを背景にさわやかに描き、陶芸の世界に新しい風を吹き込んでいます。

以上、端的に言えば「エンターテインメントと備前」という関連文化財群ですが、映画、文学、漫画などは現代人の生活を潤す重要なアイテムでもあります。それを生み出す「人」が片上湾から日生湾にかけて多く輩出し、生み出す「場所」が「三石地区」「八塔寺ふるさと村」「伊部地区」に多くあります。

【表 5-7】「⑥映画と文学、「心象風景」の残るふるさと」構成文化資源一覧

番号	文化資源の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地	
6-1	映画のロケ地	未指定	映画のロケ地は三石地区と八塔寺ふるさと村の2か所が多い。これは三石地区や八塔寺ふるさと村がひとつの関連文化財群として構成できるほど特徴的な景観をもつところに起因する。	伊部 片上 三石 吉永	<p data-bbox="991 282 1262 315">6-1 映画のロケ地</p>  <p data-bbox="954 611 1305 645">6-2 備前ゆかりの文学者</p> 
6-2	備前ゆかりの文学者	未指定	備前市ゆかりの文学者は、正宗白鳥、藤原審爾、里村欣三、小手鞠るい、眉村卓などで、それぞれ穂波、片上、日生、伊里、日生に係わる場所がある。	伊部 片上 伊里 日生	

⑥ 映画と文学、「心象風景」の残るふるさと



【図5-7】

⑦ 交流と流通の要となった地

縄文時代から現代まで、備前地域では多くの人が行き交い、住み、物をつくり、産業を興し、衰退離散し、その繰り返りで地域が成り立ってきました。備前地域の地勢・地政は、古代以前では海岸部にあっても急峻な熊山山塊があることが遺跡の立地に影響を与え、古代ではその急峻さが密教系寺院にとって拠点置く好条件となり、中世では山城を築く際に有利にはたりました。平野部においても、山陽道が中世後半に片上・伊部ルートに変わったことも地域の成り立ちに大きな影響を与えました。海浜部においても、片上湾という内海が、古代には美作国の津、中近世には備前焼の積出、近代には柵原の鉄鉱石や煉瓦などの集散地点として利用されました。日生地区の島嶼部においては、入江を利用した千軒遺跡の立地、近世には豊かな漁場、近代以降はカキ筏の養殖と展開します。そうした営みの中で備前地域の風土が作られ、人々の暮らしの中に現在でも息づいています。

縄文時代、片上に人々が定住した集落跡の長縄手遺跡、古墳時代には30数面もの鏡が出土した国指定史跡の丸山古墳、古代には美作国の津であった片上、中世では霊山寺中心に宗教的拠点を形成した熊山、鹿久居島に展開した千軒遺跡、戦国武将が覇権を争った三石城や富田松山城、近世山陽道沿いの醸造業やお歯黒生産で栄えた香登、柵原の硫化鉄鉱石の積み出しルートである片上鉄道と片上港など、交通・流通の要となった地の概要をまとめます。

a. 原始

・長縄手遺跡は、今から4,000年前、縄文時代中期末の片上の地にあった縄文時代の集落。西日本で確認された縄文時代の集落跡では、住居跡などが良好な状態で残存しているなど研究上重要な遺跡のひとつです。

・丸山古墳は、吉井川の左岸の丘陵上に立地する古墳で船載三角縁神獣鏡など31面もの鏡を出土したことで知られます。南北68m、東西55m、高さ9mの円墳。

b. 古代

・「延喜式」という平安中期に編纂された律令の施行細則、つまり格式によると、平成25(2013)年に建国1,300年となった美作国の津は「片上」で、長縄手遺跡内では奈良時代の井戸枠も確認されています。

c. 中世

・奈良時代の仏塔ともいわれる熊山遺跡が形成された後に熊山山上に成立した霊山寺は、修験など中世の宗教的拠点ともなり、備前焼の生産を庇護したともいわれます。

・鹿久居島の千軒湾の入り江に位置する千軒遺跡は、縄文時代から中世にわたる遺跡で、特に鎌倉から室町期にかけて流通の拠点と推定されています。

・吉永地区の医王山城、三石城、片上地区の富田松山城、香登城など赤松氏、浦上氏らが跳梁跋扈した山城が展開します。

・「兵庫北関入船納帳」には備前焼を積んだ船の記載があり、片上、浦伊部などの港湾名がみられる。伊部地区(浦伊部)の「来住家」付近には備前焼の積み出し拠点があったことが推定されています。

d. 近世

・第11代万代常閑の時、家伝の「延寿返魂丹」が富山に伝わり「越中富山の売薬の始祖」となりました。子孫は片上で万代医院を経営していました。

・「お歯黒」の生産地として香登産は高級品として知られていました。


・近世山陽道の香登周辺は醸造業などで栄え、その富が香登教会や石井十次など慈善事業のスポンサー的役割を果たしました。

e. 近代

・片上地区は柵原で産出した硫化鉄鉱石を積み出すためのルート片上鉄道と港湾施設が展開した地域です。現在でもディーゼル機関車や流川鉄橋、片鉄ロマン街道などが残っています。

三石地区は「日本の近代化を支えたまち三石の耐火煉瓦産業」で詳述しています。

【表 5-8】「⑦交流と流通の要となった地」構成文化資源一覧

番号	文化資源 の名称	指定等 の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の 所在地	<p style="text-align: center;">7-3 丸山古墳</p> 
7-1	長縄手遺跡	未指定	縄文時代中期末の片上湾最深部にあった集落。西日本で確認された縄文時代の集落跡では、住居跡などが良好な状態で残存しているなど研究上重要な遺跡のひとつ。	片上	
7-2	熊山の霊山寺跡・石積み群など	未指定	熊山遺跡が形成された後に熊山山上に成立した霊山寺は、修験など中世の宗教的拠点ともなり、備前焼の生産を庇護したともいわれる。	香登	

7-3	備前市の古墳	国史跡市史跡	30数面もの鏡が出土した国指定史跡の丸山古墳や、天神山古墳、西鶴山地区の低丘陵上に広がる古墳群がある。	東鶴山 西鶴山
7-4	鹿久居島の千軒遺跡と入江	未指定	鹿久居島の千軒湾の入り江に位置する県重要遺跡の千軒遺跡は、縄文時代から中世にわたる遺跡で、特に鎌倉から室町期にかけて流通の拠点と推定されている。	日生
7-5	備前市の山城	県史跡市史跡	県指定史跡の三石城跡、富田松山城跡、香登城跡、医王山城跡など山間部に山城が点在する。	備前市
7-6	万代医院跡と万代常閑	未指定	第11代万代常閑の時、家伝の「延寿反塊丹」が富山に伝わり「越中富山の売薬の始祖」となった。子孫は片上で万代医院を経営していた。	片上
7-7	片上ロマン街道	未指定	片上鉄道のナローゲージ（狭軌）跡を平成14（2002）年に片鉄ロマン街道（サイクリングロード）として整備した。	片上
7-8	香登の町並み	未指定	近世山陽道の香登周辺は醸造業などで栄え、その富で香登教会や石井十次など慈善事業のスポンサー的役割を果たした。	香登
7-9	来住家妙圀寺	市史跡	備前焼の積出拠点とされる浦伊部来住家と市指定史跡の伝太閤門跡、妙圀寺。	伊部

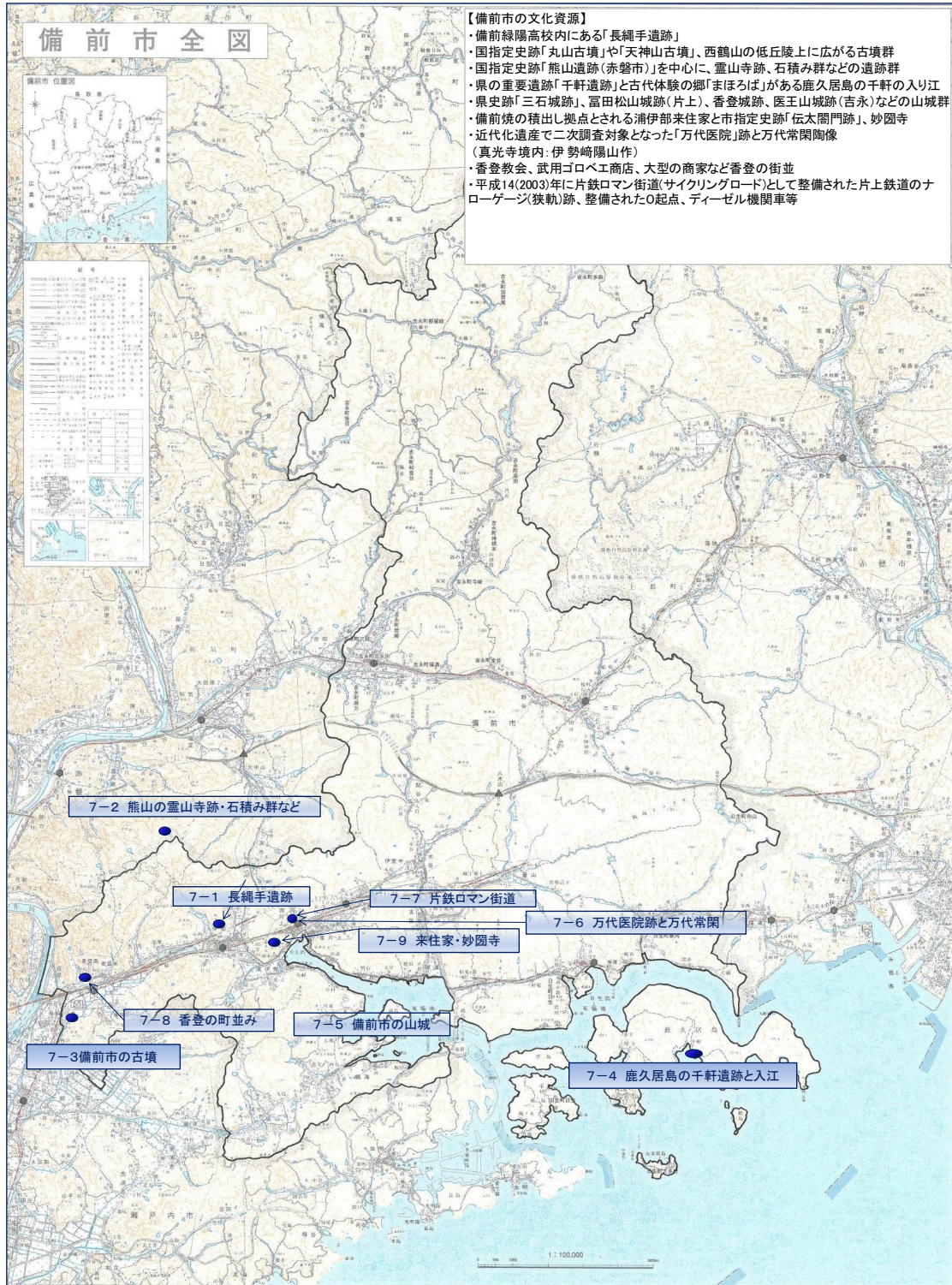
7-7 片上鉄道ゼロ起点 （片上ロマン街道）



7-8 香登の町並み



⑦ 交流と流通の要となった地



【図5-8】

第6章 文化資源の保存・活用に関する課題と方針

1 文化資源の保存・活用に関する現状と課題

(1) 調査・把握に係る現状と課題

備前市では、第2章で概要を記したように、これまで様々な文化資源把握調査が行われ、成果を上げていますが、産業遺産を含む建造物、古文書、動物、地質鉱物、保存技術、民俗など特定の分野で基礎的な調査が行われていません。このことは1市2町が合併して新備前市になって15年以上経過しているのに、指定文化財が統一した基準で加除ができていないことにもつながっています。

平成17(2005)年に合併した備前市・吉永町・日生町のうち、比較的把握が進んでいるといえるのは旧吉永町です。旧吉永町では町史が^{へんさん}編纂されており、多くの文化資源が紹介されています。通史に関連したものが中心で、文化資源の把握が十分なものとはいえませんが、民俗や文献についても詳しく記載されています。旧日生町は、民俗や自然に関しては、シリーズで冊子を刊行するなど比較的把握が進んでいますが、有形文化財や埋蔵文化財に関してまとめられたものは少ないのが現状です。これは旧日生町が刊行した『日生町誌』にも同じ傾向が見て取れます。旧備前市に至っては自治体史が編纂された事はありません。平成17(2005)年以前に合併した旧伊部町・旧三石町・旧片上町で情報量にばらつきはあるものの、町誌・町史が編纂される等、一部の地域についてある程度文化資源の把握ができています。

文化施設では、冊子が刊行され、絵馬や井田など設定された企画展のテーマで文化資源の把握が進んでいる一方、仏像と石造物の分野は民間によって、悉皆的な調査が行われています。埋蔵文化財の把握に関しては備前焼の窯跡の発掘調査が行われ、報告書が発行される等、比較的充実しているといえます。その他、3市町合併の後、地域の公民館が文化資源についてまとめたものがあります。広域では、備前市・和気町・赤穂市の一部が属していた和気郡を対象とした地域誌が刊行されていますが、これは邑久郡に属していた東鶴山地区を含んでいません。全体に通史の記述が多く、各分野にわたる網羅的な記述にはなっていません。市全体で悉皆的な調査を終えているのは仏像調査や植物相の調査です。

未調査の分野に関しては、どのような調査が必要か的確に把握した課題をもとに、事業規模等を考慮しながら予算措置も勘案し、年次計画的に実施に移していく必要があります。そうすることで、備前市の歴史文化の特徴が具体的に今まで以上に明らかになっていきます。